

ごちゃまぜの会 2024.11.30 志木市話し相手ボランティア 「語楽の会」

近藤佐保子

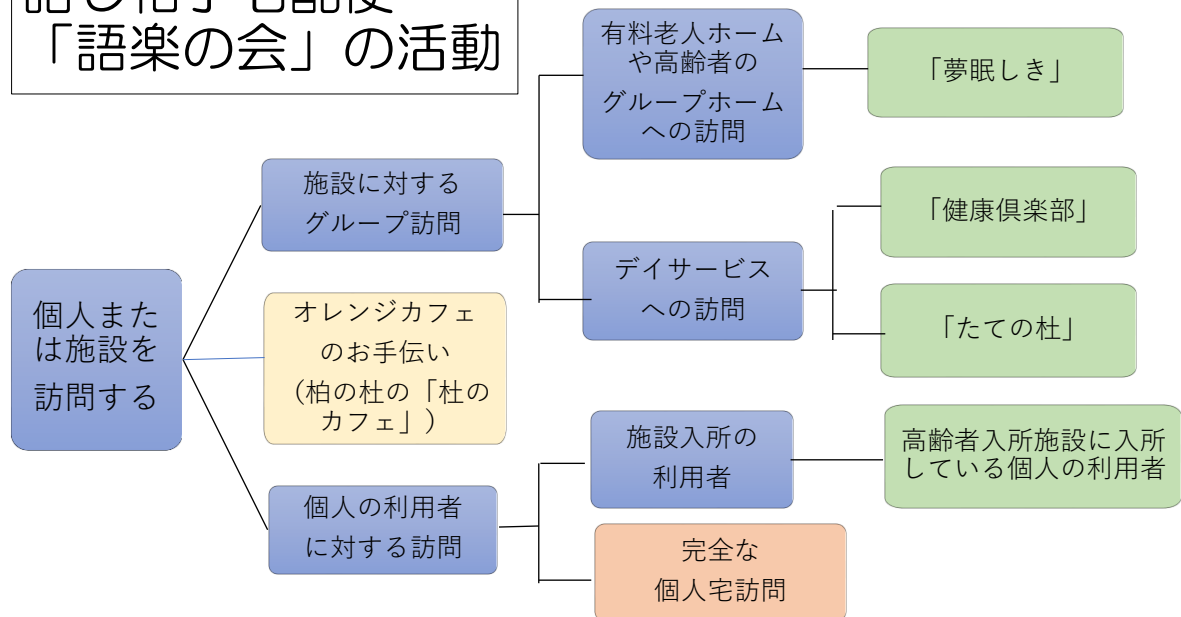
「語楽の会」の紹介

目的と活動内容について

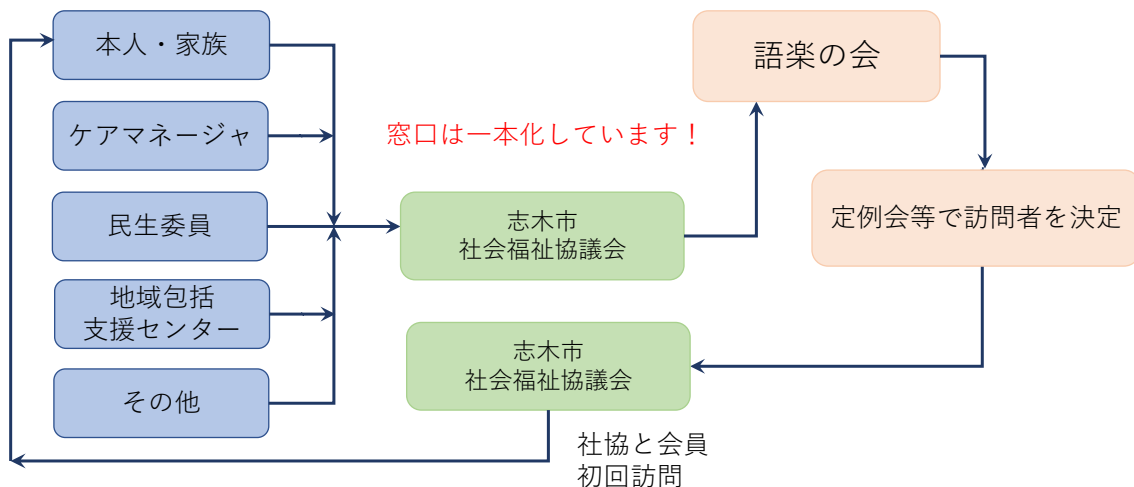
（「会則」および「社協との確認事項」より）

- ▶ 対象：話し相手を求めているが、さまざまな理由で外出をすることが困難である高齢者及び高齢者を介護している家族等
 - ▶ 会員がボランティアとしてが自宅等に訪問し、話し相手となる。
 - ▶ 訪問先：志木市内の高齢者の個人宅および高齢者施設
（入所施設・通所施設）
 - ▶ 活動時間・頻度など：通常月1回程度、滞在時間は1時間を原則
 - ▶ （訪問先とボランティアの双方の合意があれば変更可能）
- * 近時、高齢者以外の障害者にも対象を広げつつある。

話し相手宅配便 「語楽の会」の活動



依頼があってから訪問までの流れ



★会の活動として訪問する限り、個人的な依頼は受けず、志木市社協を通して訪問

特徴

- ▶ 「訪問型」の話し相手ボランティア
- ▶ 高齢者およびその介護家族が対象（近時、拡大傾向）
- ▶ 「話し相手養成講座」（社協主催）を受講した市民から希望者が会員となる（全員が受講者！）
- ▶ 窓口を社協に一本化
 - ▶ 利用者の個人情報も社協が把握



活動風景
（「広報しき」掲載）

会員の概要

- ▶ 現在の会員総数：47名
 - ▶ コロナ以前の最も多い時は70名弱
 - ▶ その後約半数に減少したが、養成講座が再開して回復傾向
- ▶ 内訳：
 - ▶ 男性9名・女性36名 女性が多い！
 - ▶ 高齢のかたも多く、80歳代のかたも複数活躍

利用者の概要

- ▶ 施設：
 - ▶ 入所施設：1件／通所施設：2件
 - ▶ オレンジカフェ：1件
- ▶ 個人宅：現在の総訪問数＝16件
 - ▶ 男性：5件／女性：11件

年間の活動の概要

- ▶ 通常総会：4月
- ▶ 定例会：隔月程度に年6回（コロナ以前は毎月）
- ▶ 研修：
 - ▶ 外部講師による研修（10月・1月）
 - ▶ 今年度の10月は手話研修を実施
 - ▶ 1月は一般公開で実施
 - ▶ 自主研修（6月・12月）⇒ 傾聴技術の向上を図る
- ▶ 暑気払い等 ⇒ 会員同士の親睦を深める
「車いすダンス」のデモを披露！
- ▶ 赤い羽根街頭募金への参加／アクティブ・ブリッジへの参加／
「総合福祉センターまつり」への参加／障害者イベントへの協力 等



新年勉強会
2023年1月
(一般公開)



研修会
2024年10月
「初めての手話」

コロナの影響

- ▶ 「緊急事態宣言」時は訪問活動をすべて休止
- ▶ その後、感染予防対策について社協とのガイドラインに基づいて徐々に訪問活動再開
 - ▶ 個人宅：利用者との合意ができたところにつき再開
 - ▶ 通所施設：再開した施設もある
 - ▶ 入所施設：再開はできていないが、新規に「夢眠しき」に訪問
- ▶ 「養成講座」の開催が中止となっていた ⇒ 会員の減少
- ▶ 活動対象や形態の変化
 - ▶ 高齢者以外（精神障害・高次機能障害等の利用者）に拡大
 - ▶ 男性利用者（独居）の申し込みが以前より増えた
 - ▶ Zoom利用の利用者（同居家族の援助あり）

現在の問題点 1

- ▶ **新入会員の確保**が難しい
 - ▶ 社協「養成講座」の毎年の開催が困難 ⇒ 会員の減少
 - ▶ 入会条件の緩和の検討（But！ 傾聴技術は担保したい）
- ▶ **会員の高齢化**
 - ▶ 発足から20年弱が経過
 - ⇒ 立ち上げ時のメンバーは1名のみ、全体に高齢化
 - ▶ 現役世代はそもそも活動が難しい
 - ⇒ 新入会員にも年齢的にみると若い世代は少ない

現在の問題点 2

- ▶ **運営スタッフの確保**が難しい
 - ▶ 「世話人」を引き受けてくれる会員がなかなかいない
 - ⇒ 同じ人が長年にわたり引き受けることになる
 - 負担が大きく不公平感
 - ▶ 「訪問型」なので、皆が集まる機会が少ない ⇒ 「所属感」が希薄
 - ▶ 派遣のためのコーディネート業務など、「事務局的」仕事は多い
- ▶ **利用者の確保**が難しい
 - ▶ 潜在的ニーズは高いはず！ しかし、発掘が難しい
 - ▶ 社協、包括、ケアマネなどに紹介をお願いするしかない

課題と検討事項

- ▶ 入会条件の緩和の検討 vs. 技術と資質の確保
- ▶ コーディネータの要請
 - ▶ 傾聴のマッチングは相性もあって意外と難しい
- ▶ 活動対象と形態の拡大の検討
 - ▶ 精神障害の方、高次機能障害、失語症などのかた
(高齢者ではすでに対応、しかし訪問可能な会員は限定)
 - ▶ Zoomや電話のケースへの対応
- ▶ 他の部門との連携
 - ▶ 会員に障がいの当事者のかたも複数存在
 - ⇒ 障害者のイベントとの連携を手掛け始めた
「総合福祉センターまつり」では車いすダンスのお手伝いも！